

ISSN 2187-6177

日本語音声コミュニケーション 11

Japanese Speech Communication 11

2023. 6



日本語音声コミュニケーション学会
Society of Japanese Speech Communication

製作 ひつじ書房

目次

発刊のことば

特集 日本語音声コミュニケーションとは何か

和文

論文

日本語アクセント「おそ下がり」の生起環境

—CSJ 独話データを利用した調査研究—

葉雪瑠・朱春躍1

論文

冒頭音反復についての一考察

—応答表現を中心に—

森山卓郎・姚瑤24

実践報告

小喃を取り入れた体験型のオンライン日本語授業

小熊利江・高木三知子41

研究ノート

フィラーの頻度を特徴量としたランダムフォレストによる日本語学習者の習熟度の

推定

石山友之60

著者紹介

雑誌の案内(投稿の方法、連絡先)

編集後記

発刊のことば

日本語音声コミュニケーション学会は、2022年4月に体制を新たにし、これまでの活動を引き継ぎつつ、規模を拡大しました。主な活動は年2回の青山研と年数回のコラボ企画の実施、そして電子学会誌を発行し、学会メンバーにお届けすることです。

こうして、学会誌『日本語音声コミュニケーション』第11号を無事お届けできるのも、ひとえに皆様のご協力あつてのことです。ありがとうございます。

さて、『日本語音声コミュニケーション』第11号からは、10号までとは趣を変え、「特集」を設けました。今号のテーマは「日本語音声コミュニケーションとは何か」です。4本の論文・実践報告・研究ノートが掲載されています。いずれも音声・映像データ満載のものとなっています。どうぞ、お楽しみください！

著者紹介

葉雪瑠 (ようせつくん)

筑波大学大学院人文社会ビジネス科学研究群国際日本研究学位プログラム博士後期
課程 1 年次

主な研究分野：音声学、日本語教育

Xuejun YE

First-year Ph.D. Student at Master's and Doctoral Program in International and
Advanced Japanese Studies, Graduate School of Business Sciences, Humanities and Social
Sciences, University of Tsukuba.

Main topics of research: Phonetics, Japanese language pedagogy.

朱春躍 (しゅしゅんやく)

博士(学術)、神戸大学名誉教授

主な研究分野：音声学、外国語教育

主要業績：『中国語・日本語音声の実験的研究』(くろしお出版、2010)、『語音詳解』
(外研社、2001)

Chunyue ZHU(Shunyaku SHU)

Doctor of Philosophy; Professor Emeritus, Kobe University.

Main topics of research: Phonetics, foreign language education.

Main publications: *Experimental Study of Chinese and Japanese Speech*, Tokyo: Kurosio
Publisher, 2010. *Yuyin Xiangjie (Detailed explanation of Japanese pronunciation)*,
Beijing: Foreign language teaching and research press, 2001.

森山卓郎 (もりやまたくろう)

早稲田大学文学学術院教授

主な研究分野：日本語学

メールアドレス：moriyama@waseda.jp

MORIYAMA Takuro

Fuclty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

Main topic of research: Japanese linguistics

E-mail address: moriyama@waseda.jp

姚瑶 (ようよう)

早稲田大学大学院文学研究科博士課程

主な研究分野：日本語学

メールアドレス：yaoyao@akane.waseda.jp

主要論文：姚瑶 (2021) 「「あ」系感動詞における語の認定について」『早稲田大学文学研究科紀要』66:pp.209–220.

YAO Yao

Graduate School of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

Main topic of research: Japanese linguistics

E-mail address:yaoyao@akane.waseda.jp

Main paper: YAO Yao. (2021).On word recognition of the “a” type interjections in Japanese. *Bulletin of the Graduate School of Literature of Waseda University*, 66, 209–220.

小熊利江 (おぐまりえ)

ルーヴァン・カトリック大学現代言語研究所准教授(ベルギー)、開智国際大学国際教養学部客員教授(日本)

主な研究分野：第二言語習得、日本語学、音声学

主な著作：『発話リズムと日本語教育』(風間書房、2008)、『学びのイノベーション』(共訳、明石書店、2016)、「バーチャル日本人家庭訪問プロジェクトの試みーベルギーの大学におけるオンラインの体験型学習活動ー」『BATJ Journal』23: 13–21 (英国日本語教育学会、2022).

Rie OGUMA, Ph.D.

Associate Professor, Institute of Modern Languages, Université catholique de Louvain, Belgium.

Visiting Professor, Faculty of International Liberal Arts, Kaichi International University, Japan.

Research Interests: Second Language Acquisition, Japanese Linguistics, Phonetics

Selected Publications: *Hatsuwa Rizumu to Nihongo Kyouiku*. Tokyo: Kazama Shobo, 2008.,

Manabi no Innovation. Tokyo: Akashi Shoten, 2016., “A project about a Virtual Japanese

Home Visit: Online Experiential Learning Activity in Belgium.” *BATJ Journal*, 23: 13–21,

The British Association for Teaching Japanese as a Foreign Language, 2022.

高木三知子 (たかぎみちこ)

ブラッセル補習授業校教員

主な研究分野：日本語教育、評価

Michiko TAKAGI

Teacher, The Japanese Saturday School of Brussels

Main topics of research: Japanese as a second language, Assessment

石山友之 (いしやまともゆき)

国際交流基金日本語国際センター専任講師

主な研究分野：日本語教育

主要業績：日本語学習番組「ひきだすにほんご Activate Your Japanese!」

Tomoyuki ISHIYAMA

The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa

Main topic of research: Japanese language education

Main publication: Japanese language learning TV program *Activate Your Japanese!*

雑誌の案内(投稿の方法、連絡先)

『日本語音声コミュニケーション』(Japanese Speech Communication)は、日本語音声コミュニケーション学会の会員であれば、どなたでも投稿できます。(但し、会員以外からの投稿も編集委員会の判断で認めることがあります。)

研究会の「入会案内」については、下記の web ページをご参照下さい。

<https://sites.google.com/view/nihononsei/membership>

「投稿要領」と「編集委員会会則」については、下記の web ページをご参照下さい。

<https://sites.google.com/view/nihononsei/publication>

編集委員会のメンバーについては、下記の web ページをご参照下さい。

<https://sites.google.com/view/nihononsei/history>

その他のお問い合わせは、下記までお願い致します。

松田真希子(まつだ まきこ)(代表理事)

japanesespeechcommunication[at]gmail.com ([at] の部分を @ に変えてご送信下さい。)

〒192-0364 東京都八王子市南大沢 1-1

東京都立大学 松田真希子研究室内

編集後記

12月にNHKのドキュメンタリー『太平洋戦争“言葉”で戦った男たち』を見ました。コロラド大学ボルダー校に設置された海軍日本語学校を修了し、日本語情報士官として活躍した「ボルダー・ボーイズ」、サイデンステッカー、ドナルド・キーン、オーテス・ケーリ、そして、テルファー・ムックが現れました。

番組のナレーションから：

1944年、アメリカ軍は、日本が絶対国防圏と定めていたサイパン島を制圧。さらに、そこからわずか5キロにあるテニアン島にも攻撃が開始される。その上陸部隊には、ボルダー・ボーイズのひとり、テルファー・ムックがいた。

名門イエール大学のロースクール出身、弁護士資格を取得していたムックには、すでに、妻と子どもがいた。テニアン島は、日本軍の守備隊だけではなく、1万人以上の民間人が暮らす島だった。1928年ごろから砂糖生産の拠点として開拓され、沖縄から多くの人々が移住し、豊かな生活を築いていた。

1944年7月、アメリカ軍4万の兵力が島に上陸、民間人も戦闘に巻き込まれる。日本軍は全滅し、住民たちはジャングルの奥へと追いつめられた。捕虜となったものは、9,500人。その中に2,000人の子どもたちがいた。戦場の地獄をくぐりぬけた子どもたちは、うつろな目をしていた。

収容所に集められた子どもたちを見て、日本語情報士官のテルファー・ムックは、ある行動に出る。

テルファー・ムックの言葉より：

有刺鉄線の中の一般市民も何かすることが必要だ。普通の生活にもどるための何かが必要だった。

そこで、私は、学校を作ろうと思い立ちました。

スゴイと思いました。戦争のさなか、途方に暮れる敵国の捕虜を目の前にし、子どもたちのための学校を作ろうと思い立つ。ムックは、仲間をつのり、物資、兵器の梱包材で教室を建て、机、黒板を作り、収容されていた大人たちが教師となり、自らも英語を教えます。

母語話者をふくめ、日本語を学ぶ人は世界中にいます。言語を学ぶ、あるいは、教えるには、科学的な分析と記述が必要です。

みなさんからの投稿をお待ちしています。

馬場良二(編集委員会委員長)



日本語音声コミュニケーション学会
Society of Japanese Speech Communication

日本語音声コミュニケーション 11

Japanese Speech Communication 11

インタラクティブ PDF 版

発行 2023年6月30日 初版1刷
著者 日本語音声コミュニケーション学会
<https://sites.google.com/view/nihononsei/>
発行・製作 株式会社 ひつじ書房
〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F
Tel.03-5319-4916 Fax.03-5319-4917
郵便振替 00120-8-142852
toiawase@hituzi.co.jp <https://www.hituzi.co.jp/>

ISSN 2187-6177